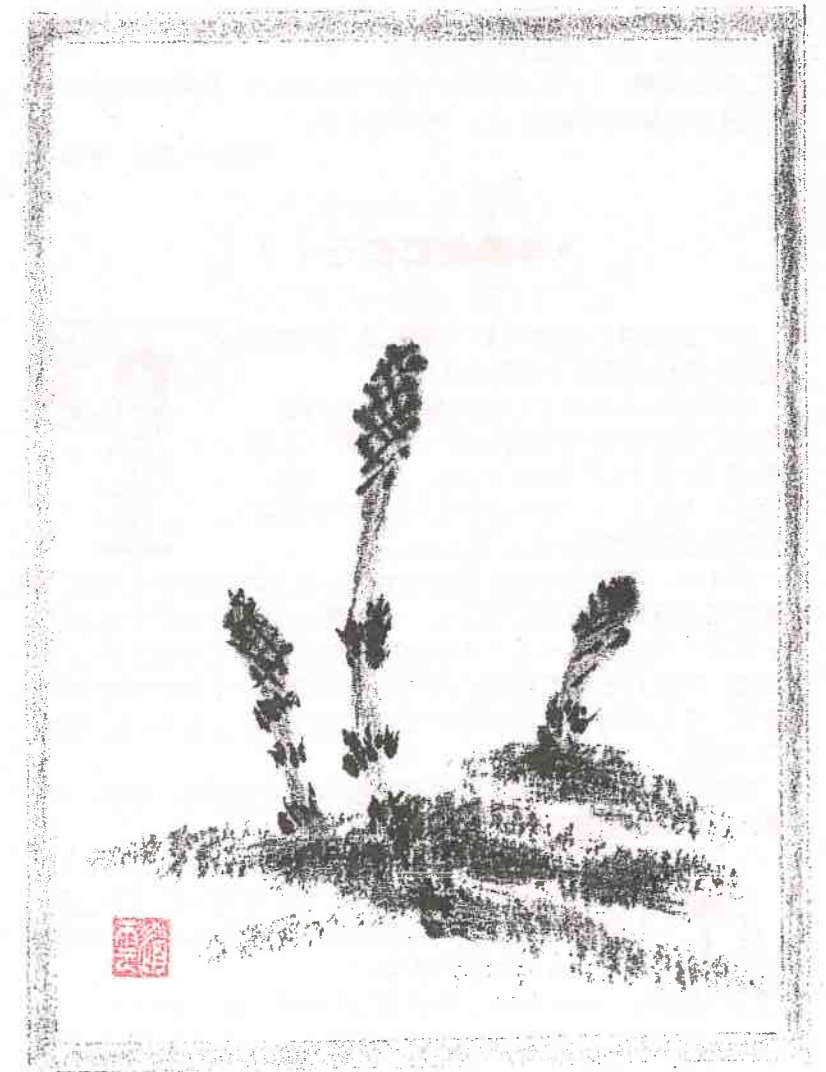
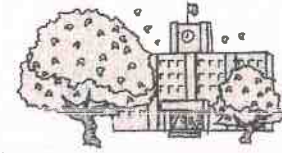


ふれあい 雪谷

平成13年
さくら子



(池の台 山本道さんの作品)



母校の思い出 ⑤ 池雪小学校の思い出

池雪小学校は、近在の小学校の中でも大変歴史がある。私は、希望に満ち昭和19年4月に入学した。当時の学校は風格のあるたたずまいであった。

しかし、入学早々に疎開活動が開始され、私も静岡県に疎開した。昭和20年に一時帰京したのだが、東京大空襲で学校も焼失してしまい、以来2年半にわたり間借り授業が始まった。

昭和21年2月に帰京したが、間借り授業のため、久原小学校へ通学した。疎開先では通学に約1時間を要したため、久原小学校までの通学は何ら苦にならず、かえって楽しんだ。翌22年に仮建築とはいえ、新しい校舎が完成した時は感激を覚えた。

6年生の時、当時としては画期的な交換学校が実施された。5年生の時に担任されていた浅賀先生が静岡県宇久須村の中学校へ転任され、中学3年生の修学旅行に東京見学を企画された。生徒は池雪小学校の6年生の家に分宿した。

その交換条件とし、夏休みの1週間の臨海学校を宇久須村で実施した。私たちは宇久須村中学3年生の家庭に宿泊させて頂き、楽しい日々を過ごした。このことは当時の毎日小学生新聞で大きく取り上げられ、他の小学校での羨望の的となった。

私たちの卒業式は、丁度校舎の建替え時で、壁こそあったものの、天井は全く無く、正に青空教室であった事は強烈な印象として残っている。

永年地元に住み、兄弟、親子2代にわたり8人も池雪小学校を卒業できた事は誠にありがたいと感じている。

池雪小学校の益々の発展を心より祈念している。

(東雪 高畑 欽一)

サークル紹介⑫ 絵手紙

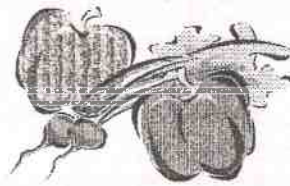
私達の「絵手紙交友会」は、洗足池図書館多目的室を借りて、毎月第二水曜日を交流の場としております。

会は平成十年に区の寿会の絵手紙教室を通じて知り合った十余名が、講座終了後も交流を続けたいと思ったことから始まりました。講師は寿会でお世話になった金田寿子先生にお願いできました。

サークルといっても、季節の草花、果物、野菜など身近なものを皆が自由に持ちより墨と顔彩(日本画で使う絵の具)で、はがきに描いた後、ちよつと言葉を添えて出来た便りをお友達やお世話になった方に送り、少しでも喜んで

もらえることが喜びです。

実習の後は皆の作品を見ながら先生のお話を伺っておりますと、あつという間に二時間がたつていくという感じです。作品の一部は「洗足池ゆうゆうくらぶ」の御好意で二階に展示させて頂いております。



こうして地域の方々にも、少しずつ絵手紙の輪が広がればと願っております。

なお、現在若干名の余裕がございますので入会希望の方は飛田会長

TEL(三七七二)二四八六 までご連絡頂ければ幸いです。(笹丸 竹下 敬子)

私の健康法 ⑦

私も人並みに年を重ねるほどに健康に気をつかう様になってきました。特に頭の健康には人一倍気を付けています。一年に一度頭のCTをとっています。それは、年老いて一人で暮らしているからです。



寒い時は別ですが、朝六時に家を出て洗足池を一周したり、ラジオ体操をしてから一日が始まります。

月曜はフラダンス、木曜は自彊術、月一度の歩こう会、特にフラ

【編集後記】
明るく陽ざしに身も心も伸びやかな季節になりました。
シリーズ「母校の思い出」は、昭和二十年代に池雪小学校が実施した、都会と地方の小学生の短期交換学校体験で、当時としては、画期的なことだったでしょう。衣食住すべてが、不自由だったその頃の思い出や、エピソードなどがありましたら、是非お知らせ願います。

(東雪 直井 和子)

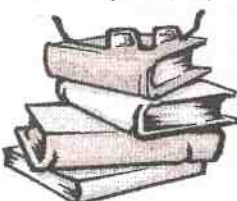


〔発行〕 わがまち大田雪谷地区推進委員会
〔編集〕 ふれあい雪谷編集委員会
連絡先 雪谷特別出張所
大田区東雪谷四一三二二三
電話 三七二九一五二一七
〔発行日〕 平成十三年四月一日
通巻第四十二号

ダンスは冬でも汗びつしよりになりながら一時間半、頭は集中、緊張の連続少しでも別のことを考えるとすぐまちがえてしまいます。その時間は、今の私の生活にはとても大切な頭の時間です。
体が健康であつても、頭が健康でなければそれは一番恐ろしい事です。無理をせず、気ままに楽しんで、長く続けられる事しかいたしません。

図書館で好きな本を借りて呼んだり、楽しく生きることが、私の何よりの健康法だと思っています。

(東中 S 一)



卒園おめでとう！！

5年間の保育園生活の中で、いろいろなことを体験し、本当にしっかり者のお兄さんになってくれたなあ、と思います。

正義感の強いまあさん。ママが元気のない時は、何も言わず隣にいてくれるやさしいまあさん。ワーッと声をあげて泣くまあさん。一度言い出すときかないまあさん。そんな君が大好きです。

これからも、自分の世界を広げて、いつでも夢をもってられる人でいてほしいと思っています。

(南雪谷 嶋村 真理)

入園した時は、歩くのがやっとで、早生まれという事もあったため、とても心配しました。

今では、お友達と元気に遊び、家族の心配や、身の回りの事も出来るようになり、すっかりお兄ちゃんになりました。

運動会では、とび箱、さか上がりも出来て、ママはとても感動しました。よく頑張りましたね。

この5年間、いろいろな事があったけれど、雅樹のおかげで乗り越える事が出来ました。ありがとう。

(池の台 斎藤 真代)

入学おめでとう！！

21世紀はじめの中学1年生は、新世紀初の小学校卒業生でもありました。

3学期に入って2日目の保護者会の日、教室には子供たちが選んだ一字を書いた習字が貼られていました。「一」「能」「豊」「好」…。文字の下にはその字を選んだ理由も添えられていました。

6年前、不安と期待に胸躍らせていた小さな子供たちが、最高学年の務めを立派に果たし、また新しい世界に旅立ちます。一文字一文字に、一人一人の努力の跡がはっきり見えました。友達、先生方そして地域の方々との交流が、子供たちを強く大きく、そしてしなやかに育ててくださったことを本当に感謝しています。

教室の窓からは、富士はもちろん本門寺も望め、時折、飛行機もゆったりすぎて行きます。

決して平坦とはいえない道を、これからも歩かなければなりません。6年間培った土台は固く確かなものです。自信を持って新しい日々を重ねてほしいと思います。

娘の選んだ字は「空」でした。

(上池上 黒川 裕子)

この情報誌は古紙70%の用紙を使用しています。

雪ヶ谷貝塚

雪ヶ谷貝塚(南雪谷5-6 円長寺の墓地の向かい側)は、縄文時代の貝塚として古く明治年間からその存在は知られてまいりました。

戦前に行われた小規模な発掘調査により、縄文前期諸磯式(5500年前)に属する遺跡であることは判明していました。

今回当地で新たな建築計画が起こり、事前調査として発掘を行い(昨年夏～秋 約三ヵ月)10月1日に遺跡の公開見学が行われ1,200人も多数の見学者で賑わいました。

今回の調査で、縄文時代前期に属する竪穴式住居跡28軒が発見され、その内5軒の住居内には当時の食料であった貝類を捨てた貝塚が認められます。

この住居跡群は重複が激しく、同じ場所に何段階も作り替えられたことがわかります。これらの住居跡群は調査区外にまで広がると考えられ、かなり大規模な集落であったと推定されます。

また、北東側には土壌と呼ばれる直径1m前後の穴が34基発見され、中からは土器・石器が出土しています。この土壌群は住居群に取り囲まれるように存在し、縄文時代の村の中に作られた墓地と考えられます。

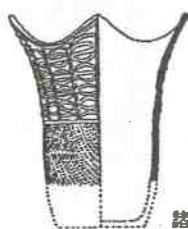
当時の雪ヶ谷のこの付近は、標高23mの台地になっており、呑川に向かってせり出た地況にありました。縄文前期は、気温が現在より高く東京湾の水位も、3～5m高かったことが想定されます。

そして、海も、この地域まで入り込んでいました。現在の大田区の半分は海であったのです。貝類の入取に容易だったことの証明となります。

雪ヶ谷貝塚付近に住んだ縄文時代人は、田園調布方面に続く台地上で狩猟を行い、村の周りの林で植物を採取して、さらに下った海岸で魚介類を採って生活していました。

また、出土された土器・石器類は、磨製石斧・打製石斧・礫器・磨石・凹石・石鏃等で、復元完形となるものも多くみられますので、整理されたあと、区の郷土博物館に保管され、古代史研究の貴重な資料となります。

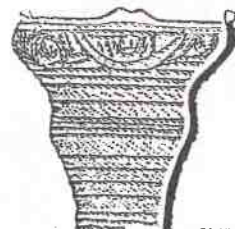
都市開発により、遺跡が消えて無くなることは残念ですが、雪ヶ谷貝塚の詳細が解明されたことは、すばらしい出来事だと思います。



諸磯 a



諸磯 a



諸磯 b

(南雪谷 飯田 一三)



自治会リレー随筆

雪谷に住んで



私たち家族が、日吉から雪谷に移り住んで35年になります。

その当時の日吉は周りが田んぼで、ざりがに・おたまじゃくし・かえる等がいっぱいいました。

雪谷に来て東中に15年、希望ヶ丘に20年と現在にいたっています。

私たち夫婦は地方出身なので、子供の頃のことは故郷にあります。ですから昔の雪谷のことはよくわかりません。しかし、子供の成長とともに、多数の方々にお話を聞き、少しずつ昔の雪谷が見えてくるような気がしています。

東中は山の上で、買物も大変で、この町の坂の多いことに驚かされました。

その頃は木造の家が多く、散歩していると、竹垣の向こうにきれいな草花や、芝生の広い庭が望まれ、その見物を楽しんだものです。

それらがつぎつぎと壊され、いつの間にか白壁やレンガのビル、洋風の家に変わり、町並みはきれいになりましたが、人となとのふれあいが遠のいてきたように感じられます。

しかし35年の間、穏やかで明るく楽しいことがいっぱいある町だなあと感じます。

住めば都という言葉があります。住んでみなければわかりませんが、町を愛し続けながら生活できることに感謝しております。

私は現在、希望ヶ丘自治会館の管理としての仕事をさせて頂いております。そのため、多数の方々と接触することができ、幸せに思っております。

事故や災害の無い、よい環境を維持することのできる町づくりのために、皆様のご理解、ご協力をお願いいたします。

(希望ヶ丘 近野 益美)

短歌

シクラメン

首をたれても 物言えず
水をほしがる 背筋のばして
(小池 北村 文子)

ゆるやかに

風に添ひゆく 花枝
鮮紅真鯉の 泳ぐ疎水を
(東雪 清水 はりえ)

俳句

令格に

ひときわ高き 初音かな
(池の台 藤井 良子)

電線に

雀一列 春の雨
(池の台 桐澤 粹)

春陽ざし

浴びて稚魚等の 鬼ごっこ
(池の台 桐澤 粹)

